

歯科医学総合講義 4 : 542-4-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7・DP8

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	4年次学年教育主任

学修目標 (G I O) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数：6単位 ・学修目標 (G I O) : 社会の要請に応える創造性と人間性豊かで自律する全人的な歯科医師となるため、これまで講義や実習で学んだ内容を統合し、松戸歯学部 student doctor として必要な態度・知識・技能を修得する。モデルコアカリキュラムに記載されている項目を中心に学修項目を理解する。
担当教員	*小宮 正道、*有川 量崇、*大峰 浩隆、岡田 裕之、落合 智子、*河相 安彦、*久山 佳代、*小見山 道、近藤 信太郎、平塚 浩一、吉垣 純子、*宇都宮 忠彦、*大口 純人、*多田 充裕、加藤 治、*木本 統、後藤田 宏也、谷本 安浩、*西村 均、*山口 秀紀、*卯田 昭夫、*遠藤 弘康、*大村 祐史、*岡部 達、*岡本 康裕、楠瀬 隆生、栞原 紀子、*北川 剛至、*小峯 千明、*五関 たけみ、*齋藤 真規、玉村 亮、*續橋 治、松野 昌展、松本 裕子、*三田村 佐智代、*目澤 優、*田中 孝明、*石井 智浩、*石井 かおり、*岩井 啓寿、*伊東 浩太郎、*枝 卓志、*根本 晴子、小林 良喜、田口 千恵子、*矢口 学
教科書	履修科目の指定教科書および配布された資料等
評価方法 (E V)	歯科医学総合講義4の定期試験は(公社)医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験を用いる。歯科医学総合講義4の合格基準は、共用試験CBT(知識)とOSCE(技能・態度)双方ともに70点以上であること。最終成績はCBT(50%)、OSCE(50%)とする。なおCBTおよびOSCEの受験には、歯科医学総合講義4の平常試験が平均70点以上であることがのぞましい。
学生へのメッセージ オフィスアワー	1. 前学期は1~4年次に学修した自然科学分野、基礎医学分野を中心に、基礎から臨床に向けて知識を整理しながら統合していくことを目的とする。 2. 後学期は12のユニットに分け、試験→理解できてない領域を自己評価→自学自習→平常試験を繰り返します。また、自学自習で理解できなかった事項や解説のほしい事項を講義で取り上げるので、自学自習中に授業で取り上げてほしい事項を明示すること。 ユニット1: 顎運動とその疾患 ユニット2: 炎症・疼痛 ユニット3: 感染・免疫 ユニット4: 歯質・歯の欠損と歯科材料(補綴系) ユニット5: 歯と歯周組織の常態と疾患(保存系) ユニット6: 代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療 ユニット7: 口腔領域の検査 ユニット8: 顎口腔領域の疾患(口腔外科系) ユニット9: 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系) ユニット10: 成長発育(小児・矯正系+発生) 3. 理解の不足している知識を分析する能力を養い、自学学修の態度をに見つけ、学修環境を整え、臨床実習の成果を大きくすることができます。 4. 歯科医学総合講義4の学習の範囲は1~4年次で今まで学習した内容を復習しておくこと。 5. 自学自習の時間やオフィスタイムを利用し、さらなる知識及び技能の向上を図ること。CBTおよびOSCE終了時は、歯科医師国家試験まで既に2年を切っていることを再認識すること。 注意1、平成31年1月上旬(詳細は後日連絡)にCBT模擬試験(DES模擬試験)を行う予定である。また自主的な受験ではあるが模擬試験(麻布模試)を受験することを推奨する。 注意2、CBTおよびOSCEの結果は試験終了後2月中に発表予定(詳細は後日連絡)となるため、不合格者は再試験の申し込みが必要となるため、旅行などの予定は絶対に入れないこと。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/04/10 (水) 3時限 13:10~14:40	細胞の構造と機能 生命を構成する基本物質	<p>【授業の一般目標】 細胞の基本的構造を学び、それらと細胞機能、細胞増殖および分化機構との関係を理解する。 生命を構成する基本物質の分子的構造と機能ならびにそれらの生体内代謝とその異常を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 細胞の基本構造(細胞膜、細胞内小器官)を説明できる。 2. 細胞の機能と、個々の細胞内小器官の役割を説明できる。 3. 生体を構成する基本物質を説明できる。 4. 細胞内での物質の代謝を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目: 今まで学んだコアカリキュラムC-2-1)、C-2-3)の範囲を復習する。 ・事前学修時間: 30分 ・事後学修項目: 配布資料などを参考に講義内容をまとめ直す。 ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ピア・インストラクションを実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項</p>	楠瀬 隆生

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/04/10 (水) 3時限 13:10～14:40	細胞の構造と機能 生命を構成する基本物質	5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 c 細胞・細胞小器官の構造と機能 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子的基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ①アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ④生体のエネルギー産生と利用を説明できる。 C-2-3) 細胞の構造と機能 ①真核細胞の全体像と細胞膜、核、細胞小器官及び細胞骨格の構造と機能を説明できる。 ②細胞の分泌と吸収を説明できる。 ③細胞周期と細胞分裂を説明できる。	楠瀬 隆生
2019/04/17 (水) 3時限 13:10～14:40	遺伝子と遺伝細胞のコミュニケーション	【授業の一般目標】 遺伝子の構造と機能および遺伝の基本的機序を理解する。 細胞間、細胞・マトリックス間の接着機序および細胞レベルでの情報伝達の仕組みを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 遺伝子の構造と機能を説明できる。 2. 遺伝情報の発現に至る各過程の機序を説明できる。 3. 細胞間、細胞・マトリックス間の接着機序を説明できる。 4. 細胞間の情報伝達の仕組みを理解する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：今まで学んだコアカリキュラムC-2-2)、C-2-4)の範囲を復習する。 ・事前学修時間：30分 ・事後学修項目：配布資料などを参考に講義内容をまとめ直す。 ・事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ピア・インストラクションを実施する。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 b ゲノム、遺伝子、染色体 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子的基盤 C-2-2) 遺伝子と遺伝 ①核酸、遺伝子及び染色体の構造と機能を説明できる。 ②デオキシリボ核酸(DNA)複製と修復の機序を説明できる。 ③転写と翻訳の過程と調節機序を説明できる。 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ①細胞接着の機構を説明できる。	楠瀬 隆生
2019/04/24 (水) 3時限 13:10～14:40	身体を構成する組織、器官 (組織学) 個体発生、器官発生	【授業の一般目標】 人体の初期発生、胚葉形成、器官形成について説明できる 鰓弓を理解できる。 人体を構成する主要な組織を説明できる。 【行動目標 (SBOs)】 1. 個体発生と器官発生を概説できる。 2. 鰓弓の成立を説明できる 3. 鰓弓由来の器官組織を列挙できる 4. 内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：人体の初期発生、胚葉形成、器官形成について ・事前学修時間：60分 ・事後学修項目：配布資料などを参考に復習する。 ・事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の発生 b 二層性胚盤、三層性胚盤、胚子期、胎児期 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-2) 組織、器官及び個体の発生と成長	岡田 裕之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/04/24 (水) 3時限 13:10～14:40	身体を構成する組織、器官(組織学) 個体発生、器官発生	①人体の正常な個体発生と器官発生を説明できる。	岡田 裕之
2019/05/08 (水) 3時限 13:10～14:40	平常試験1-① 解説講義	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. これまでに行われた講義の内容を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容の資料を見直す</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【MCQ試験】302教室 4/11, 4/18, 4/25 講義範囲</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	*小宮 正道 岡田 裕之 楠瀬 隆生
2019/05/15 (水) 3時限 13:10～14:40	頭蓋骨と頭頸部の筋	<p>【授業の一般目標】 頭蓋骨と頭頸部の筋の形態を習得し、筋走行と顎運動の関係を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 頭蓋骨の構造を説明できる。 2. 顎関節の構造を説明できる。 3. 咀嚼筋、舌骨上筋と下顎の運動を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：「口腔解剖学」頭頸部の骨、頭頸部の筋 P.62～83を復習する。 事前学習時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントで骨、筋の復習をする。 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 4 頭頸部の構造 イ 頭頸部の骨格系 a 頭蓋</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 4 頭頸部の構造 ウ 頭頸部の筋系 b 咀嚼筋 c 浅頭筋</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ②頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 ③咀嚼筋、表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2019/05/22 (水) 3時限 13:10～14:40	頭頸部の神経系	<p>【授業の一般目標】 頭頸部の構造を理解するために脳神経の分布に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 三叉神経の分布と機能を説明できる。 2. 顔面神経の分布と機能を説明できる。 3. 舌咽神経の分布と機能を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：「口腔解剖学」頭頸部の神経系 P.98～110を復習する。 事前学習時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントを復習する。 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	近藤 信太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/05/22 (水) 3時限 13:10~14:40	頭頸部の神経系	<p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 4 頭頸部の構造 カ 頭頸部の神経系 a 脳神経</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑤脳神経の走行、分布及び線維構成を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2019/05/29 (水) 3時限 13:10~14:40	神経と内分泌による恒常性の調節	<p>【授業の一般目標】 人体の恒常性が神経系と内分泌系によってどのように調節されているかを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 神経の分類を説明できる。 2. 中枢神経と末梢神経の違いを説明できる。 3. 求心性神経と遠心性神経の違いと役割を説明できる。 4. 自律神経の二重支配を説明できる。 5. ホルモン分類と名称を説明できる。 6. ホルモンによる糖代謝調節を説明できる。 7. ホルモンによるカルシウム代謝を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経細胞の構造と名称、内分泌器官の種類を復習しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：Webclass上の課題別講義（生理学）のうち、神経と内分泌の小テストを受けること。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系（骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系（歯および唾液腺を含む）、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 キ 神経系 d 自律機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子基盤 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ②ホルモン、成長因子、サイトカイン等の受容体を介する細胞情報伝達機構を説明できる。 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 ④シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 ②恒常性維持と内分泌系・神経系の機能相関を説明できる。</p>	吉垣 純子
2019/06/05 (水) 3時限 13:10~14:40	循環と呼吸の調節	<p>【授業の一般目標】 循環と呼吸の調節メカニズムを学び、循環と呼吸の関連を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 血圧と心拍数の調節メカニズムを説明できる。 2. 圧受容器反射を説明できる。 3. 化学受容器反射を説明できる。 4. 外呼吸と内呼吸を説明できる。 5. 血液における酸素運搬を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血液におけるpH緩衝能について復習する。血管および心臓の構造を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：Webclass上の課題別講義（生理学）のうち、循環と呼吸の小テストを受けること。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p>	吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/06/05 (水) 3時限 13:10～14:40	循環と呼吸の調節	<p>プリントを配布する。</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 (骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系 (歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 呼吸器・循環器系 a 気道、肺、呼吸筋 b 心臓、脈管系</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環 (肺循環、体循環及び胎児循環) の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-3-4)-(8) 呼吸器系 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。</p>	吉垣 純子
2019/06/12 (水) 3時限 13:10～14:40	平常試験1-②解説講義	<p>【授業の一般目標】 これまでに学修した事項を整理する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. これまでに学修した事項を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 弱点科目およびその項目</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【MCQ試験】302教室 5/18, 5/25, 6/1, 6/8 講義範囲</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	*小宮 正道 近藤 信太郎 吉垣 純子
2019/06/19 (水) 3時限 13:10～14:40	微生物の基本的事項	<p>【授業の一般目標】 微生物の形態学的特徴、病原性および感染機構について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. □細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 3. □細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構を説明できる。 4. □細菌、真菌、ウイルスがヒトに対して示す病原性を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：微生物の形態学的特徴、病原性および感染機構について復習する。 準備学修時間：60分 事後学修項目：講義内容の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 カ 感染症</p>	*齋藤 真規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/06/19 (水) 3時限 13:10~14:40	微生物の基本的事項	b 病原微生物 c 感染症 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。	*齋藤 真規
2019/06/26 (水) 3時限 13:10~14:40	体液量と浸透圧の調節機構	【授業の一般目標】 内分泌による人体の調節機構を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 体液の種類と組成を説明できる。 2. 体液量の調節機構を説明できる。 3. 体液の浸透圧の調節機構を説明できる。 4. 体液量と血圧の関係を説明できる。 5. 血液の酸塩基平衡を説明できる。 6. 浮腫の起こるメカニズムを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：体液量調節に関わるホルモンを復習する。浸透圧は何かを復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：Webclass上の課題別講義（生理学）のうち、血液と呼吸の小テストを受けること。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系（骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系（歯および唾液腺を含む）、造血管系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系） 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 内分泌系 a 内分泌器官 b ホルモンの合成、分泌・作用 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ②恒常性維持と内分泌系・神経系の機能相関を説明できる。 ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。 ③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。	吉垣 純子
2019/07/03 (水) 3時限 13:10~14:40	免疫	【授業の一般目標】 微生物の感染に対する免疫的防御のしくみを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明できる。 3. 細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。 4. 自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 5. アレルギーの分類を説明できる。 6. 自己免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 7. ワクチンの分類と意義を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：今まで学んだ行動目標の範囲を予習しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義スライド、プリント内容の復習 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布、チェックテスト 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室	落合 智子 小林 良喜

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/07/03 (水) 3時限 13:10~14:40	免疫	<p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 f 免疫 (免疫担当細胞、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ④抗原提示機能と免疫寛容を説明できる。 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑦粘膜免疫を説明できる。 ⑧ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明できる。</p>	落合 智子 小林 良喜
2019/07/10 (水) 3時限 13:10~14:40	薬物の作用機序	<p>【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬物と医薬品、薬理の作用機序、薬物の併用に関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 医薬品の分類を説明できる。 2. 薬物の表示と保管を説明できる。 3. 受容体を介する薬物を列挙し説明できる。 4. 受容体を介さない薬物を列挙し説明できる。 5. 薬物の併用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目: 「薬物の作用機序」について教科書で確認する。 ・事前学修時間: 30分 ・事後学修項目: 授業時配布プリントの内容確認と整理。 ・事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 学修媒体: マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 c 薬物投与 (連用および併用を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-1) 薬物と医薬品 ①医薬品の分類を説明できる。 ②毒薬、劇薬及び麻薬等の表示と保管を説明できる。 ③日本薬局方を説明できる。 C-6-2) 薬理作用 ①薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。</p>	松本 裕子
2019/07/17 (水) 3時限 13:10~14:40	歯科材料・器械の 所要性質	<p>【授業の一般目標】 歯科材料および歯科用器械・器具の適切な取り扱い方を理解するために、それらの基本的性質について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科材料の物理的、機械的、化学的および生物学的性質について説明できる。 2. 応力-ひずみ曲線について説明できる。 3. 歯科用器械・器具の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 歯科材料・器械の分類および用途について教科書で確認し、該当する講義内容について予習する。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 配布した講義プリント内の試験問題 (主に国試過去問) を解き、選択肢の正誤の理由を整理する。 事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 学修媒体: マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/07/17 (水) 3時限 13:10~14:40	歯科材料・器械の 所要性質	302教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 a 基本的性質 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 1 生体材料の科学 ア 材料の種類 a 有機材料 b 無機材料 c 金属材料 d 複合材料 a 物理的性質 b 機械的性質 c 化学的性質 d 生物学的性質と生体安全性 2 診療用器械・器具 ア 診療用器械 d レーザー装置 7 成形技術・機器 エ CAD/CAM 【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具） D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 ①歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の所要性質と用途を説明できる。 ②材料の物理的（力学的性質と熱的性質を含む）、化学的（溶解性を含む）、 生物学的（生体活性、副作用を含む）性質とその評価法を説明できる。 ③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。	谷本 安浩
2019/07/24 (水) 3時限 13:10~14:40	病因と病態	【授業の一般目標】 病因と病態を理解するために、退行性病変（細胞・組織の傷害）、循環障害、進行性病変（増殖と修復）、炎症、腫瘍及び先天異常の病因、分類、病理学的特徴について学修する。 【行動目標（SBOs）】 1. 下記の学修目標及び授業内容は臨床経験に基づいて設定するものである。 2. 退行性病変（細胞・組織の傷害）の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。 3. 循環障害の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。 4. 進行性病変（増殖と修復）の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。 5. 炎症の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。 6. 腫瘍の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。 7. 先天異常の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1) 病因論における内因と外因について 2) 6大病変の分類と特徴について ・事前学修時間：60分 事後学修項目 1) 6大病変の病理学的特徴の整理 2) WebClass上に掲載した病理組織像の所見整理 ・事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有り（WebClassを用いた演習） 302教室、マルチメディアの併用 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死 【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常 c 損傷 d 炎症 e 感染症 f 免疫異常 g 腫瘍 h 循環障害 i 代謝障害、萎縮、壊死 j 病的増殖 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-1) 病因論と先天異常 ①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。 ②環境と疾患の関係を説明できる。	*宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/07/24 (水) 3時限 13:10～14:40	病因と病態	C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 ①細胞傷害と組織傷害を説明できる。 C-5-3) 修復と再生 ④創傷治癒の過程と関与する細胞を説明できる。 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びびうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる C-5-6) 腫瘍 ②腫瘍の病因を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。	*宇都宮 忠彦
2019/08/28 (水) 3時限 13:10～14:40	平常試験 1-③ 解説講義	【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの講義内容を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【筆記試験】302教室 6/22、6/29、7/6、7/13、7/20 講義範囲 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室	*小宮 正道 吉垣 純子 落合 智子 小林 良喜 松本 裕子 谷本 安浩 *宇都宮 忠彦 *齋藤 真規
2019/09/09 (月) 2時限 10:40～12:10	オリエンテーション 共用試験 (CBT, OSCE) についての説明・成績評価法の確認・公開問題解説講義	【授業の一般目標】 総合講義4の目的を理解する 【行動目標 (SBOs)】 1. webクラスを用いて学習をすすめることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 特になし 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 一般教養的事項 イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方 【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 A-9-1) 生涯学習への準備 ①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 ③医療の改善の必要性和科学的研究の重要性を説明できる。 ④科学的研究 (臨床研究、疫学研究、生命科学研究等) に積極的に参加する。	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/09/09 (月) 3時限 13:10～14:40	準備学習-1	【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行うために必要な知識を習得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 下記の学修目標及び講義内容は臨床経験にも続いて設定されている。 2. 自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 3. 歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 4. 医療の改善の必要性和科学的研究の重要性を説明できる。 5. 科学的研究に積極的に参加する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：今までの指定教科書および資料 ・準備学修時間： 60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/09 (月) 3時限 13:10~14:40	準備学習-1	<p>必修の基本的事項 1 3 一般教養的事項</p> <p>イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 A-9-1) 生涯学習への準備 ①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 ③医療の改善の必要性和科学研究の重要性を説明できる。 ④科学研究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に積極的に参加する。</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦
2019/09/10 (火) 3時限 13:10~14:40	準備学習-2	<p>【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行うために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 下記の学修目標及び講義内容は臨床経験にも続いて設定されている。 2. 自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 3. 歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 4. 医療の改善の必要性和科学研究の重要性を説明できる。 5. 科学研究に積極的に参加する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：今までの指定教科書および資料 ・準備学修時間： 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 3 一般教養的事項</p> <p>イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 A-9-1) 生涯学習への準備 ①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 ③医療の改善の必要性和科学研究の重要性を説明できる。 ④科学研究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に積極的に参加する。</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦
2019/09/11 (水) 2時限 10:40~12:10	プレテスト(ユニット1・2)	<p>【授業の一般目標】 現在の知識の確認</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの学習内容に対する理解度の確認</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC</p> <p>【学修方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/09/12 (木) 3時限 13:10~14:40	1-1. 顎運動とその疾患	<p>【授業の一般目標】 咀嚼運動を理解するために、顎反射による調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 顎反射を分類できる。 2. 下顎張反射の反射弓を説明できる。 3. 開口反射を誘発する刺激を列挙できる。 4. 歯根膜咬筋反射の意義を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 【事前学修項目】 反射弓の構成要素を理解しておく。 事前学修時間：30分 【事後学修項目】 授業の配布資料の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略(LS)】</p>	加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/12 (木) 3時限 13:10～14:40	1-1. 顎運動とその疾患	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 a 反射</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。</p>	加藤 治
2019/09/17 (火) 3時限 13:10～14:40	1-2. 顎運動とその疾患 顎運動の解剖学	<p>【授業の一般目標】 顎運動を正確に説明するために頭蓋骨の構造と下顎骨に付着する筋の構造を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 下顎骨の構造を説明できる。 2. 舌骨の構造を説明できる。 3. 咀嚼筋の構造を説明できる。 4. 舌骨筋群の構造を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学習項目：咀嚼筋と舌骨上筋の起始一停止を説明する。 ・事前学習時間：30分 ・事後学習項目：配布プリントを熟読する。 ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング 有 黒板の板書と必要に応じて資料の配付、マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 4 頭頸部の構造 ウ 頭頸部の筋系 b 咀嚼筋</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ②頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 ③咀嚼筋、表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。 ⑤脳神経の走行、分布及び線維構成を説明できる。 ⑥顎関節の構造と機能を説明できる。</p>	松野 昌展
2019/09/18 (水) 2時限 10:40～12:10	1-3. 顎運動とその疾患	<p>【授業の一般目標】 下顎運動を障害する疾患を治療できるようになるために、顎関節、咀嚼筋に生じる異常を理解し、その原因となる疾患に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 顎関節症による顎運動の異常について理解する。 3. ブラキシズムの特徴とその対応について理解する。 4. 口腔ディスクネジアの特徴とその対応について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：顎関節の正常構造と機能。咀嚼筋の正常構造と機能 事前学習時間：30分 事後学修項目：顎関節の正常構造と機能。咀嚼筋の正常構造と機能 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：反転授業を検討する。 臨床における実地体験をもとに教授する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 k 顎関節症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害</p>	*小見山 道

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/18 (水) 2時限 10:40～12:10	1-3. 顎運動とその疾患	<p>1 病態 キ プラキシズム 各論V 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 高齢者等の歯科診療で注意すべき疾患・病態・症候 ア 運動障害 e 神経・筋疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*小見山 道
2019/09/19 (木) 3時限 13:10～14:40	1-4. 顎運動とその疾患	<p>【授業の一般目標】 下顎運動を障害する疾患を理解し、補綴治療に必要な顎運動に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 補綴治療に必要な顎運動について説明できる。 3. 顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 4. 顎関節症の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 顎関節疾患、下顎運動、咬合様式、顎運動調節機構について 事前学修時間: 約1時間必要 事後学修項目: 顎関節疾患、下顎運動、咬合様式、顎運動調節機構について 事後学修時間: 約1時間必要</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室、PC、プリント あり: ビアインストラクション</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 イ 臨床操作 c 顎間関係の記録</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 ウ 技工操作 c 咬合器装着・調節 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 c 顎間関係の記録</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯） ⑧調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明できる。</p>	*石井 智浩
2019/09/24 (火) 2時限 10:40～12:10	2-1. 炎症・痛みとその疾患：炎症性ケミカルメディエーター	<p>【授業の一般目標】 炎症の発症機序を理解するために、炎症性ケミカルメディエーターの種類と特徴を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 炎症性ケミカルメディエーターの種類を列挙できる。 2. アミン類やキニン類の合成と特徴を説明できる。 3. サイトカインの定義と種類を説明できる。 4. エイコサノイドおよびPAFの合成を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：2年次の炎症に関するプリントの見直し。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントの見直し。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング；無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p>	平塚 浩一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/24 (火) 2時限 10:40~12:10	2-1. 炎症・痛みとその疾患：炎症性ケミカルメディエーター	302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 オ 炎症 b 原因 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。	平塚 浩一
2019/09/24 (火) 3時限 13:10~14:40	2-2. 炎症・痛みとその疾患：疼痛の分類と診断	【授業の一般目標】 疼痛を有する患者を適確に診断できるように、疼痛の症状や分類の仕方を理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 疼痛の定義を説明できる。 3. 疼痛の種類を分類できる。 4. 疼痛の症候を説明できる。 5. 疼痛の診査方法を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：疼痛の分類、疼痛の症候、疼痛の診査方法 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業配布資料の内容 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 配布資料、マルチメディア 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ケ 疼痛 a 侵害受容性疼痛 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ケ 疼痛 b 神経障害性疼痛 c 心理社会的要因による疼痛 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ⑤歯痛の機序を説明できる。	*多田 充裕
2019/09/25 (水) 2時限 10:40~12:10	2-3. 炎症・痛みとその疾患：炎症・痛みとその疾患	【授業の一般目標】 痛みの成立を理解するために、感覚の種類による伝導路の違いを学習する。 【行動目標（SBOs）】 1. 皮膚感覚、深部感覚および特殊感覚の違いを説明できる。 2. 受容器と感覚神経の関係について説明できる。 3. 口腔における痛みの伝導路を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 感覚の分類を整理しておく。 準備学修時間：30分 事後学修項目 授業の配布資料の復習 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論	加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/25 (水) 2時限 10:40～12:10	2-3. 炎症・痛みとその疾患：炎症・痛みとその疾患	総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 c 象牙質、歯髄、歯根膜 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。	加藤 治
2019/09/26 (木) 3時限 13:10～14:40	2-4. 炎症・痛みとその疾患：炎症の病理学	【授業の一般目標】 炎症を理解するために、定義、徴候、分類及び病理組織学的特徴について学修する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 炎症の定義を述べることができる。 3. 炎症性細胞の種類と特徴について説明できる。 4. 炎症の5徴候について説明できる。 5. 炎症の分類と病理組織学的特徴について説明できる。 6. 炎症の代表的疾患の病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 ・炎症の定義 ・炎症の分類 事前学修時間：40分 事後学修項目 ・授業の配布資料の復習 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング有り：WebClassを用いた演習・副教材 302教室, マルチメディアの併用, 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる ③滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。 ④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。	*宇都宮 忠彦
2019/09/30 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験 (ユニット1・2)	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 PC Webクラスを用いた試験 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【コアカリキュラム】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/09/30 (月) 3時限 13:10～14:40	ユニット1・2補充講義	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【コアカリキュラム】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/10/01 (火) 3時限 13:10～14:40	プレテスト (ユニット3・4)	【授業の一般目標】 現在の知識の確認	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	プレテスト (ユニット3・4)	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	<p>*大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子</p>
2019/10/02 (水) 2時限 10:40~12:10	3-1. 微生物・感染・免疫とその疾患：免疫系	<p>【授業の一般目標】 自然免疫と獲得免疫を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 自然免疫と獲得免疫の流れを説明できる。 2. 自然免疫で働く細胞と分子を説明できる。 3. 体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。 4. アレルギーを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：自然免疫と獲得免疫について予習しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：スライド、プリントの内容の復習 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 f 免疫 (免疫担当細胞、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ④抗原提示機能と免疫寛容を説明できる。 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。</p>	落合 智子
2019/10/03 (木) 3時限 13:10~14:40	3-2. 微生物・感染・免疫とその疾患：微生物	<p>【授業の一般目標】 感染症を理解するために、起因となる病原微生物について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 細菌、ウイルス、真菌の基本的性状を説明できる。 2. 細菌、ウイルス、真菌を起因とする感染症を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：病原微生物と関連する感染症について教科書を読む。 準備学修時間：30分 準備学修項目：配布プリントの復習 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 カ 感染症 b 病原微生物</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 カ 感染症 c 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明でき</p>	栞原 紀子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/03 (木) 3時限 13:10~14:40	3-2. 微生物・感染・免疫とその疾患:微生物	る。	栗原 紀子
2019/10/07 (月) 2時限 10:40~12:10	3-3. 口腔領域の感染症	<p>【授業の一般目標】 口腔領域の感染症を分類・列挙し、十分に理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔領域の感染症を分類できる。 2. 口腔粘膜感染症を列挙できる。 3. 口腔領域の感染症の病理組織所見を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目: 今まで学んだコアカリの範囲C-2-3), C-3-1), 2), E-2-4), E-3-2) 準備学修時間: 30分 事後学修項目: 感染症の分類、病態 事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302 教室 有 (Webclass)</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 口腔症状を呈するウイルス感染症 c 麻疹 d 水痘・帯状疱疹 e 単純疱疹 f 手足口病 g ヘルパンギーナ a 梅毒 c 結核</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。</p>	*久山 佳代
2019/10/07 (月) 3時限 13:10~14:40	3-4. 微生物・感染・免疫とその疾患:微生物・感染・免疫とその疾患	<p>【授業の一般目標】 感染症・免疫疾患を分類・列挙し、十分に理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 感染症・免疫疾患を分類できる。 3. 感染症・免疫疾患を列挙できる。 4. 感染症・免疫疾患の症状・病理組織所見を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 感染症・免疫疾患について予習しておく。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 感染症・免疫疾患の分類、病態について復習する。 事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302 教室 有 (Webclass) 学修媒体: マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 カ 感染症</p>	*大口 純人

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/07 (月) 3時限 13:10~14:40	3-4. 微生物・感染・免疫とその疾患:微生物・感染・免疫とその疾患	b 病原微生物 c 感染症 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ⑤化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。 C-4-2) 免疫 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。	*大口 純人
2019/10/08 (火) 3時限 13:10~14:40	4-1. 歯質・歯の欠損と歯科材料:材料	【授業の一般目標】 適合性の良い歯冠修復物・補綴装置を製作するために、それらに使用する材料の基本的性質および適切な取り扱い方法について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 印象材の種類、組成および性質について説明できる。 2. 歯科用石膏の種類、組成および性質について説明できる。 3. ワックスパターンの変形の原因およびその対策について説明できる。 4. 鋳造埋没材の種類、組成および性質について説明できる。 5. 歯科精密鋳造の原理と鋳造欠陥の発生原因およびその対策について説明できる。 6. 成形修復材料の種類、組成および性質について説明できる。 7. 義歯床用アクリルレジンの変形の原因およびその対策について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 歯科生体材料と歯科材料・器械に関する種類および成形法について教科書で確認し、該当する講義内容について予習する。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 配布した講義プリント内の試験問題 (主に国試過去問) を解き、選択肢の正誤の理由を整理する。 事後学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 学修媒体: マルチメディア、プリント配布 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 a 基本的性質 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 c 印象用材料 d 模型用材料、ワックス 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 6 歯冠修復・義歯用材料 ア 高分子材料 a 加熱重合型アクリルレジン、常温重合型アクリルレジン 7 成形技術・機器 ウ 金属の成形技術・機器 a 鋳造工程 c 鋳造精度、鋳造欠陥 【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と用途 ①歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の所要性質と用途を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ②歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。	谷本 安浩
2019/10/09 (水) 2時限 10:40~12:10	4-2. 歯質・歯の欠損と歯科材料:有床義歯②	【授業の一般目標】 可散性義歯を適切に製作し患者に適切に装着するために必要な無歯顎の病態の検査、製作法及び装着後の管理を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 全部無歯顎の補綴治療の順序を説明できる 3. 無歯顎の病態を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 無歯顎補綴治療学第3版の講義内容部位を自学自習する。 事前学習時間: 60分 事後学修項目: 授業時配布資料を用いた内容確認と整理 事後学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 あり 【学修方略 (LS)】 講義	*木本 統

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/09 (水) 2時限 10:40～12:10	4-2. 歯質・歯の欠損と歯科材料：有床義歯②	<p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 b 印象採得</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 c 顎間関係の記録 d ろう義歯の試適</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯） ⑥可撤性義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 ⑦歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 ⑧調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明できる。 ⑨人工歯の選択を説明できる。 ⑩可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。</p>	*木本 統
2019/10/10 (木) 3時限 13:10～14:40	4-3. 歯質・歯の欠損と歯科材料：有床義歯③	<p>【授業の一般目標】 可撤性義歯を適切に適切に製作し患者に適切に装着するために必要な無歯顎の病態の検査、製作法及び装着後の管理を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床実務経験に基づき以下の項目を授業する 2. 可撤性義歯の製作過程を説明できる 3. 可撤性義歯の設計原理を説明できる 4. 検査に基づく診断ができる 5. 可撤性義歯の調整、術後管理の方法を説明できる 6. 可撤性義歯のリラインの手順を説明できる 7. 可撤性義歯の修理手順を説明できる 8. 可撤性義歯装着後における定期検診の項目を列挙できる 9. 可撤性義歯装着後における定期検診の指導項目を列挙できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：3年次の復習： ・準備学修時間：30分</p> <p>・事後学修項目：講義プリント演習： ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ピアインストラクション</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 ア 義歯の設計</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 a 前処置 e 装着</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯） ②可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。 ③可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。 ④可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 ⑬可撤性義歯の装着、調整を説明できる。 ⑭可撤性義歯のメンテナンス、リライン及び修理を説明できる。</p>	*河相 安彦
2019/10/15 (火) 3時限 13:10～14:40	4-1. 歯質・歯の欠損と歯科材料：有床義歯①	<p>【授業の一般目標】 可撤性義歯を適切に適切に製作し患者に適切に装着するために必要な部分欠損歯列の病態の検査、可撤性義歯製作法及び装着後の管理を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 3. 可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。</p>	*石井 智浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/15 (火) 3時限 13:10~14:40	4-1. 歯質・歯の欠損と歯科材料：有床義歯①	<p>4. 可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 5. 可撤性義歯の設計原則を説明できる。 6. 歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 7. 可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 8. 可撤性義歯の製作過程を説明できる。 9. 可撤性義歯の装着、調整を説明できる。 10. 可撤性義歯のメンテナンス、リライン及び修理を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：3年次の有床義歯補綴学の学習内容の復習 事前学修時間：約2時間 事後学修項目：3年次の有床義歯補綴学の学習内容のまとめ 事後学修時間：約2時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室、PC、プリント あり：ピアインストラクション</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計 a 設計の原則</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 2 診察、検査、診断 エ 治療計画の立案 4 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計 b 義歯の構成要素 c オーバーデンチャー a 前処置 b 印象採得 c 顎間関係の記録 d フレームワークの試適 e ろう義歯の試適 f 装着 8 指導と管理 イ 補綴装置に対する指導</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯） ⑫可撤性義歯の製作過程を説明できる。 ⑬可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。 ⑭可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。 ⑮可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 ⑯可撤性義歯の設計原則を説明できる。 ⑰歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 ⑱人工歯の選択を説明できる。 ⑲可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 ⑳可撤性義歯の製作過程を説明できる。 ㉑可撤性義歯のメンテナンス、リライン及び修理を説明できる。</p>	*石井 智浩
2019/10/16 (水) 2時限 10:40~12:10	4-5. 歯質・歯の欠損と歯科材料クラウンブリッジ①	<p>【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行えるために補綴学の基礎的知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 下顎位と咬合様式について説明できる。 3. クラウンブリッジによる補綴装置の特徴を説明できる。 4. クラウンブリッジの製作方法を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：4年次クラウンブリッジ講義プリントと実習指針を見返す。 事前学習時間：30分 事後学習項目：講義プリントの復習 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：なし 学習媒体：講義プリント、PC 302教室 PC</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論</p>	*田中 孝明

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/16 (水) 2時限 10:40～12:10	4-5. 歯質・歯の欠損と歯科材料 クラウンブリッジ①	総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 d 歯の欠損の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 ②クラウンブリッジの種類、特徴及び製法 (CAD/CAM を含む) を説明できる。 ⑧クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。 ⑩平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。	*田中 孝明
2019/10/17 (木) 3時限 13:10～14:40	4-6. 歯質・歯の欠損と歯科材料 クラウンブリッジ②	【授業の一般目標】 歯質の欠損に対する歯冠修復における臨床的意義と方法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. クラウンブリッジの意義について説明できる。 2. クラウンブリッジの治療の流れを説明できる。 3. 支台築造の意義と方法について説明できる。 4. 支台歯形成の意義と方法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： これまでに受けた講義と実習の内容を復習する。 ・準備学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：なし 学修媒体：講義プリント、PC 302教室 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 2 診察、検査、診断 エ 治療計画の立案 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 ①クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。 ③支台築造の意義、種類及び特徴を説明できる。 ④支台歯形成の意義と方法を説明できる。 ⑤クラウンブリッジ製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。	*大村 祐史
2019/10/21 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験 (ユニット3・4)	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 P C W e b クラスを用いた試験 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【コアカリキュラム】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大川 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/10/21 (月) 3時限 13:10～14:40	ユニット3・4補充講義	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【コアカリキュラム】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大川 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/10/23 (水) 2時限 10:40～12:10	プレテスト (ユニット5)	【授業の一般目標】 現在の知識の確認	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	プレテスト (ユニット5)	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの学習内容</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	<p>*大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子</p>
2019/10/24 (木) 3時限 13:10~14:40	5-1. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行えるために保存修復学の基礎的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」 2. 回転切削器具について説明できる。 3. グラスアイオノマーセメントについて説明できる。 4. 齲蝕の病因・病態について説明できる。 5. レジンセメントについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 今まで学んだコアカリの範囲:D-1, E-3-2), 3) 事前学修項目:齲蝕の病因・病態について 事前学修時間:60分 事後学修項目:各種歯科用セメントについて 事後学修時間:60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無:無し 学習媒体:講義プリント、PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 5 歯と歯周組織の構造 イ 組織と性状 a エナメル質、象牙質、歯髄</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 a 歯の硬組織疾患の治療 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 2 診療用器械・器具 ア 診療用器械 b エアタービン c マイクロモーター 5 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 ア 成形修復用材料 b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と用途 ①歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の所要性質と用途を説明できる。 ③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ①成形修復・予防填塞用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。</p>	*岩井 啓寿
2019/10/28 (月) 2時限 10:40~12:10	5-2. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行えるために保存修復学の基礎的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」 2. コンポジットレジンについて説明できる。 3. 間接修復法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 今まで学んだコアカリの範囲: D-2, E-3-3), 4) 事前学修項目:直接、間接修復法のちがいについて 事前学修時間:60分 事後学修項目:コンポジットレジン修復の手順について 事後学修時間:60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無:無し 学習媒体:講義プリント、PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p>	*岩井 啓寿

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/28 (月) 2時限 10:40～12:10	5-2. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 b 永久歯の直接修復法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 c 永久歯の間接修復法 d 窩洞形成法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (1) 齶蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ②minimal intervention <MI>に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。 ③修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。 ⑥窩洞形成の意義と方法を説明できる。</p>	*岩井 啓寿
2019/10/28 (月) 3時限 13:10～14:40	5-2. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行えるために保存修復学の基礎的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」 2. コンポジットレジンについて説明できる。 3. 間接修復法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 今まで学んだコアカリの範囲：D-2, E-3-3), 4) 事前学修項目：直接、間接修復法のちがいについて 事前学修時間：60分 事後学修項目：コンポジットレジン修復の手順について 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学習媒体：講義プリント、PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 b 永久歯の直接修復法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 c 永久歯の間接修復法 d 窩洞形成法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (1) 齶蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ②minimal intervention <MI>に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。 ③修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。 ⑥窩洞形成の意義と方法を説明できる。</p>	*岩井 啓寿
2019/10/29 (火) 3時限 13:10～14:40	5-4. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【授業の一般目標】 適切な歯内療法を行えるようになるために、歯内療法に用いる機材・薬剤について修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯内療法の処置の流れを説明できる。 3. 歯内療法に用いる薬剤について説明できる。 4. 外科的歯内療法の種類・適応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 【準備学習項目】 予習項目：歯の構造について説明できる。 予習時間：30分 復習項目：授業配布プリントの確認。 復習時間：30分</p>	*岡部 達

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/29 (火) 3時限 13:10～14:40	5-4. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：授業プリント、PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 b 歯内療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療 ①歯髄・根尖性歯周疾患の症状、検査法、診断及び治療法 (直接覆髄法を含む)を説明できる (疾患の細胞レベルでの説明を含む)。</p>	*岡部 達
2019/10/30 (水) 2時限 10:40～12:10	5-5. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【授業の一般目標】 歯周病の病態と徴候および歯周病の診査・診断について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯周病の炎症の原因を理解する。 3. 歯周病の痛みと臨床症状を理解する。 4. 歯周病の病態を理解する。 5. 歯周病と全身疾患との関係について理解する。 6. 歯周組織検査の項目とその必要性について理解する。 7. 歯周病の分類について理解する。 8. 歯周治療計画の立案について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：臨床歯周病学 第2版 ・事後学修時間：120分 ・事後学修項目：授業の配布資料の復習 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302教室 PC マルチメディアの使用 アクティブラーニング 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ア 歯周疾患の病因と病態 c 歯周炎</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 キ 歯・歯周組織の診察 c 歯周組織の症状 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ア 歯周疾患の病因と病態 d 歯周炎のリスクファクター e 壊死性歯周疾患 f 合性外傷 h 歯肉退縮 i 歯周-歯内病変</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ④口腔細菌、プラーク (口腔バイオフィルム) 及び歯石を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる (疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む)。 ②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針 (メンテナンス法を含む)を説明できる。</p>	*目澤 優
2019/10/30 (水) 3時限 13:10～14:40	5-6. 歯と歯周組織の常態と疾患 (保存系)	<p>【授業の一般目標】 歯周基本治療および歯周外科治療について理解する。</p>	*目澤 優

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	5-6. 歯と歯周組織の常態と疾患(保存系)	<p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯周基本治療の項目と内容について説明できる。 3. 歯周外科治療の術式および適応症を説明できる。 4. 臨床応用されている歯周組織再生療法について説明できる。 5. 歯周形成手術の術式および適応症を説明できる。 6. メンテナンスおよびSPTについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：臨床歯周病学 第2版 ・事前学修時間：120分 ・事後学修項目：授業の配布資料の復習 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】 302教室 PC マルチメディアの使用 アクティブラーニング 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 d 歯周外科治療(切除療法、組織付着療法、歯周組織再生治療)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 e 歯周外科治療(歯周形成手術) b 歯周基本治療 f 根分岐部病変の治療 g 口腔機能回復治療 h 薬物療法 i メンテナンス、SPT<supportive periodontal therapy></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる (疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む)。 ②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針 (メンテナンス法を含む) を説明できる。 ③歯周治療の術式と適応症を説明できる。 ④歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。 ⑤歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。</p>	*目澤 優
2019/10/31 (木) 3時限 13:10~14:40	5-7. 歯と歯周組織の常態と疾患(保存系)(粘膜疾患)	<p>【授業の一般目標】 口腔粘膜疾患の診断と治療を適切に行うために、口腔粘膜疾患の種類と病態について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 天疱瘡の種類および病態を説明できる。 3. 類天疱瘡の種類および病態を説明できる。 4. 口腔扁平苔癬の種類および病態を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：今まで学んだコアカリE-2-4)-(4)の範囲を復習する。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業内容の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】 302教室 PC アクティブラーニング 無 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 b 天疱瘡、類天疱瘡</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論</p>	*遠藤 弘康

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/31 (木) 3時限 13:10~14:40	5-7. 歯と歯周組織の常態と疾患(保存系)(粘膜疾患)	各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 i 口腔扁平苔癬 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。	*遠藤 弘康
2019/11/05 (火) 3時限 13:10~14:40	平常試験 (ユニット5)	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 P C W e b クラスを用いた試験 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/11/06 (水) 2時限 10:40~12:10	ユニット5 補充講義	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/11/07 (木) 3時限 13:10~14:40	プレテスト (ユニット6・7)	【授業の一般目標】 現在の知識の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/11/11 (月) 2時限 10:40~12:10	6-1. 代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療：薬物動態	【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬物の適用方法と薬物動態について修得する。 【行動目標 (S B O s)】 1. 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 2. 薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：「薬物動態」について教科書で確認する。 ・事前学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。 ・事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 (WebClass) 学修媒体：マルチメディア、プリント配布 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 b 薬物動態 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用	松本 裕子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/11 (月) 2時限 10:40～12:10	6-1. 代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療：薬物動態	③薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。	松本 裕子
2019/11/11 (月) 3時限 13:10～14:40	6-2. 代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療：歯科治療に用いる薬物	【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬物の作用機序、薬物の副作用と有害作用、薬物の相互作用について修得する。 【行動目標(SBOs)】 1. 抗菌薬・抗ウイルス薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。 2. 鎮痛薬・抗炎症薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：「抗菌薬、抗ウイルス薬、鎮痛薬、抗炎症薬」について教科書で確認する。 ・事前学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。 ・事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有(WebClass) 学修媒体：マルチメディア、プリント配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む) 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 c 薬物投与(連用および併用を含む) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ④薬物の連用の影響(耐性、蓄積及び薬物依存)を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。 ②薬剤耐性(antimicrobial resistance <AMR>)に配慮した適切な抗菌薬使用を説明できる。	松本 裕子
2019/11/12 (火) 3時限 13:10～14:40	6-3. 代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療：五大栄養素と代謝経路	【授業の一般目標】 身体の構成成分を代謝経路を理解するために、五大栄養素の基本的な構造や特徴を学ぶ。 【行動目標(SBOs)】 1. タンパク質の構造と特徴を説明できる。 2. 炭水化物の種類と特徴を説明できる。 3. 脂質の構造と特徴を説明できる。 4. ビタミンの種類とその欠乏症を説明できる。 5. 五大栄養素の代謝経路を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：3年次の栄養に関するプリントの見直し。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントの見直し。 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分の構造・機能 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ①アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ②糖質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ③脂質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ④生体のエネルギー産生と利用を説明できる。	平塚 浩一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/12 (火) 3時限 13:10~14:40	6-3. 代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療：五大栄養素と代謝経路	⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。	平塚 浩一
2019/11/13 (水) 2時限 10:40~12:10	6-4. 代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療：全身疾患・薬物と歯科治療	<p>【授業の一般目標】 薬物の副作用、有害作用の種類とその予防法に関する基本的事項を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 3. 塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 4. 薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。 5. 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：抗血栓薬の種類 事前学修時間：30分 事後学修項目：配布したガイドラインから今までの経緯を把握した上で、HbA1cの診断基準値、JDSからNGSPへの換算式、糖尿病薬の作用機序による分類。PT-INRの抜歯適応基準値、抗凝固薬の種類。感染症心内膜炎ハイリスク患者、注意すべき歯科治療内容、予防法。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む）</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	*卯田 昭夫
2019/11/14 (木) 3時限 13:10~14:40	7-1. 口腔領域の検査(画像検査・病理検査)：顎口腔領域の疾患・画像検査・放射線	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の嚢胞および腫瘍の画像診断を適切に行うために、画像検査法の基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 下記の学修目標及び講義内容については臨床経験にも続いて設定されている。 2. 顎・口腔領域の嚢胞の特徴的な画像所見を説明できる。 3. 顎・口腔領域の腫瘍の特徴的な画像所見を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 口内法エックス線検査の種類および適応を説明できる。 2) パノラマエックス線検査の適応を説明できる。 3) CT, MRI, 超音波検査および核医学検査の適応を説明できる。 ・事前学修時間：2時間 事後学修項目 1) 嚢胞の画像所見 2) 腫瘍の画像所見 ・事後学修時間：2時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302教室 PC アクティブラーニングあり。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 ②放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。 ③放射線防護の基準と方法を説明できる。 ④エックス線画像の形成原理（画像不良の原因を含む）を説明できる。 ⑤エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 ⑥口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。 ⑦口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像の読影ができる。</p>	*伊東 浩太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/14 (木) 3時限 13:10～14:40	7-1. 口腔領域の検査(画像検査・病理検査): 顎口腔領域の疾患・画像検査・放射線	⑧顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類及び適応を説明できる。 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imaging <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。	*伊東 浩太郎
2019/11/18 (月) 2時限 10:40～12:10	7-2. 口腔領域の検査: 画像検査・放射線	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の外傷および炎症の画像診断を適切に行うために、画像検査法の基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 下記の学修目標及び講義内容については臨床経験にも続いて設定されている。 2. 顎・口腔領域の外傷の特徴的な画像所見を説明できる。 3. 顎・口腔領域の炎症の特徴的な画像所見を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 1) 口内法エックス線検査の種類および適応を説明できる。 2) パノラマエックス線検査の適応を説明できる。 3) CT検査の適応を説明できる。 ・事前学修時間: 2時間 事後学修項目 1) 外傷の画像所見 2) 炎症の画像所見 ・事後学修時間: 2時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302 教室 PC アクティブラーニングあり。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 d 上顎骨骨折</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 ②放射線の人体(胎児を含む)への影響の特徴(急性影響と晩発影響等)を説明できる。 ③放射線防護の基準と方法を説明できる。 ④エックス線画像の形成原理(画像不良の原因を含む)を説明できる。 ⑤エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 ⑥口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。 ⑦口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像の読影ができる。 ⑧顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類及び適応を説明できる。 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imaging <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎
2019/11/18 (月) 3時限 13:10～14:40	7-3. 口腔領域の検査	<p>【授業の一般目標】 口唇・口腔・顎顔面領域の検査を行うために必要な基本的な知識、技能及び態度を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 臨床検査の意義について説明できる。 3. 臨床検査の種類と方法について説明できる。 4. 臨床検査の基準値を知り、重要な異常について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目 臨床検査の意義及び方法 ・準備学修時間: 60分 ・事後学修項目 授業の配布資料の復習 ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無: なし マルチメディアの使用 302教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 エ 検体検査の種類 a 一般臨床検査</p>	*小峯 千明

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/18 (月) 3時限 13:10~14:40	7-3. 口腔領域 の検査	<p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 0 検査・臨床判断の基本 ア 意義と目標 a 診断 c スクリーニング、医療情報の収集 イ 検査の安全性 b 患者・検体の確認 エ 検体検査の種類 a 一般臨床検査 b 血液学検査 c 生化学検査 d 免疫血清学検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 ①健康、障害と疾病の概念を説明できる。 ②口腔と全身の健康との関連を説明できる。</p>	*小峯 千明
2019/11/19 (火) 3時限 13:10~14:40	平常試験 (ユニッ ト6・7)	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 P C W e b クラスを用いた試験</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/11/20 (水) 2時限 10:40~12:10	ユニット6・7補 充講義	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/11/21 (木) 3時限 13:10~14:40	プレテスト (ユニ ット8)	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの学習内容</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/11/25 (月) 2時限 10:40~12:10	8-1 成長発育 (小 児・矯正系+発生) : 成長発育の特徴 および評価、顎顔 面頭蓋の成長発育 の特徴について	<p>【授業の一般目標】 顎顔面の不正な成長発育や様々な環境要因から引き起こされる不正咬合を改善し、個人の福祉に寄与するため、顎顔面頭蓋の成長発育の基本的な知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 生理的年齢を説明できる。 3. Harris と Scammon の成長発育パターンについて述べる事ができる。 4. 成長発育の評価法およびその意義を説明できる。 5. 鼻上顎複合体の成長発育を述べる事ができる。 6. 下顎骨の成長発育の特徴を述べる事ができる。</p>	*石井 かおり

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/25 (月) 2時限 10:40～12:10	8-1 成長発育(小児・矯正系+発生) :成長発育の特徴および評価、顎顔面頭蓋の成長発育の特徴について	<p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目:①HarrisとScammonの臓器発育曲線について ②生理的年齢について ③成長発育の評価法について ④鼻上顎複合体の成長発育について ⑤下顎骨の成長発育について ・*歯科矯正学第6版p14-42および、4年生前期歯科矯正学の講義で配布されたプリントを参照すること。 ・事前学修時間:40分 ・事後学修項目:顎顔面頭蓋部の成長発育について ・事後学修時間:60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング:無 学修媒体:授業配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略(LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】</p> <p>必修の基本的事項 6 人体の発生・成長・発達・加齢 ウ 口腔・顎顔面の成長・発育 b 上顎骨・下顎骨の成長の特徴(成長の時期、骨形成様式)</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ②口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる。</p>	*石井 かおり
2019/11/25 (月) 3時限 13:10～14:40	8-2 成長発育(小児・矯正系+発生) :顎顔面頭蓋の成長発育と矯正装置	<p>【授業の一般目標】</p> <p>口腔・顎・顔面の成長発育を考慮した矯正治療を実践するために、成長発育を利用した矯正治療について修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎整形力を説明できる。 3. 早期治療を説明できる。 4. 成長期に用いる矯正装置を列挙できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目:①矯正装置の特徴 ②矯正力の種類 ③予防矯正・抑制矯正 ・*歯科矯正学第6版p183-194、p215-262および、4年生前期歯科矯正学の講義で配布されたプリントを参照すること。 ・事前学修時間:60分 ・事後学修項目:矯正装置の特徴について ・事後学修時間:60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング:無し 学習媒体:授業配布プリント、PCによるスライド 参考図書:医歯薬出版「歯科矯正学」第6版</p> <p>【学修方略(LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】</p> <p>必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置 f 不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ②口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる。 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	*五関 たけみ
2019/11/26 (火) 3時限 13:10～14:40	8-3 成長発育(小児・矯正系+発生):	<p>【授業の一般目標】</p> <p>障害者ならびに高齢者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 3. 障害者の行動調整と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 4. 高齢者の生理的、心理的および行動的特徴を説明できる。 5. 要介護高齢者(在宅も含む)の歯科治療時の注意点を説明できる。 6. 摂食嚥下障害の診察、検査ならびに診断について説明できる。 7. 摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目:これまでに学んだコアカリの範囲を復習する。 事前学修時間:60分 事後学修項目:授業時配布資料を用いた内容確認と整理 事後学修時間:60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*矢口 学

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/26 (火) 3時限 13:10～14:40	8-3 成長発育 (小児・矯正系+発 生) :	<p>アクティブラーニング：無 学修媒体：PCスライド、配布プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 イ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療 a 治療環境</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論V 診察 2 小児への対応 オ 発達障害のある小児への対応 a 自閉スペクトラム症[自閉症スペクトラム障害]〈ASD〉 3 障害者への対応 ア 障害の概念 ウ 行動調整 オ 歯科治療上留意すべき事項 5 高齢者への対応 イ 機能評価 e 摂食嚥下障害 6 全身疾患を有する者への対応 イ 身体的特徴 総論VII 治療 6 リハビリテーション イ リハビリテーションの技術 a 摂食・嚥下障害のリハビリテーション 歯科医学各論 各論V 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 高齢者等の歯科診療で注意すべき疾患・病態・症候 イ 認知障害 a 認知症 c 嚥下障害 2 老化による口腔・顎顔面領域の症候 ア 機能的変化 b 摂食嚥下機能</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ①高齢者の生理的、心理的及び行動的特徴を説明できる。 ②要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。 ③摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。 ④摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 ②障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療に必要な注意点を説明できる。</p>	*矢口 学
2019/11/27 (水) 2時限 10:40～12:10	8-4 成長発育 (小児・矯正系+発 生) :	<p>【授業の一般目標】 小児の齲蝕治療ができるようになるために、乳歯および幼若永久歯の齲蝕、歯冠修復および歯内療法について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 乳歯および幼若永久歯の齲蝕の特徴を説明できる。 3. 小児の歯冠修復の適応症を説明できる。 4. 小児の歯冠修復の術式を説明できる。 5. 小児の歯内療法の適応症を説明できる。 6. 小児の歯内療法の術式を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：『小児の口腔科学』小児の齲蝕と予防、小児の齲蝕治療 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業配布資料の内容確認と整理 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：授業配布プリント、PCスライド 参考図書：学研書院『小児の口腔科学』</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 エ 小児の歯の硬組織 疾患 a 乳歯齲蝕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患</p>	*根本 晴子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/27 (水) 2時限 10:40～12:10	8-4 成長発育 (小児・矯正系+発 生) :	<p>エ 小児の歯の硬組織 疾患 b 幼若永久歯齲蝕 2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患 ウ 小児の歯髄疾患・根尖性歯周疾患 a 乳歯の歯髄疾患と治療 b 乳歯の根尖性歯周疾患と治療 c 幼若永久歯の歯髄疾患と治療 d 幼若永久歯の根尖性歯周疾患と治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-2) 小児の歯科治療 ①乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる。 ②乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査と診断を説明できる。 ③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる。 ④乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診察、検査と診断を説明できる。 ⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の処置法の種類、適応症、手順、留意点及び予後を説明できる。</p>	*根本 晴子
2019/11/28 (木) 2時限 10:40～12:10	8-5 成長発育 (小児・矯正系+発 生) :	<p>【授業の一般目標】 外傷を主訴として来院した小児患者に対処することができるようになるために、小児の歯の外傷および対応法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 小児の歯の外傷の特徴を説明できる。 3. 小児の歯の外傷の原因を説明できる。 4. 外傷歯への影響を説明できる。 5. 乳歯外傷による後継永久歯への影響を説明できる。 6. 乳歯および幼若永久歯の歯冠破折の診査と診断および処置法と予後を説明できる。 7. 乳歯および幼若永久歯の歯根破折の診査と診断および処置法と予後を説明できる。 8. 乳歯および幼若永久歯の脱臼の診査と診断および処置法と予後を説明できる。 9. 小児の歯の外傷の予防を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：『小児の口腔科学』 小児の歯の外傷と処置 事前学修時間： 60分 事後学修項目：授業配布資料の内容確認と整理 事後学修時間： 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：授業配布プリント、PCスライド 参考図書：学研書院『小児の口腔科学』</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 4 歯の外傷 ウ 乳歯・幼若永久歯 の外傷の処置と経過</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 4 歯の外傷 イ 診察と診断、治療 方針 a スポーツによる歯の外傷の予防</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-2) 小児の歯科治療 ⑦小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる。</p>	*根本 晴子
2019/11/28 (木) 3時限 13:10～14:40	8-6 成長発育 (小児・矯正系+発 生) :	<p>【授業の一般目標】 歯の発生を中心にコアカリの内容を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する 2. 歯の発生段階を列挙できる 3. エナメル器の構造を説明できる 4. 歯の形成細胞を列挙できる 5. 歯周組織の発生を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯の発生について 事前学修時間：60分 事後学修項目：歯の発生について配布プリントを中心に復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体等：PPTスライド</p>	玉村 亮

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/28 (木) 3時限 13:10～14:40	8-6 成長発育 (小児・矯正系+発 生) :	【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 9 口腔・顎顔面の発生・成長・発育 イ 歯・歯周組織の形成と歯の萌出 b 歯の硬組織形成 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ①歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる。 ⑥歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。	玉村 亮
2019/12/02 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験 (ユニッ ト8)	【授業の一般目標】 これまでの講義内容を説明できる 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの講義内容を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 PC We bクラスを用いた試験 【学修方略 (L S)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【コアカリキュラム】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/12/02 (月) 3時限 13:10～14:40	ユニット8 補充講 義	【授業の一般目標】 弱点科目及びその項目についての内容を学修する。 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 PC We bクラスを用いた試験 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/12/03 (火) 3時限 13:10～14:40	プレテスト (ユニ ット9)	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの学習内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC We bクラスを用いた試験 【学修方略 (L S)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【コアカリキュラム】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/12/04 (水) 2時限 10:40～12:10	9-1. 医の倫理・ 医療事故・コミュ ニケーション保健・ 関連法規(衛生・ 診断系): 医療面 接・医療コミュニ ケーション	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科患者の心理特性、効果的な会話、患者から 効率的に情報収集、効果的な会話スキルに関する知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 医療面接の目的および医療面接で行う具体的な内容を説明できる。 3. 医療面接の4要素 (尋ねる, 聴く, 答える, 観察する) について説明できる。 4. コミュニケーションスキルを列挙し説明できる。 5. 非言語的コミュニケーションを説明できる。 6. 基本的な医療者の態度について説明できる。 7. 聴く態度の重要性について説明できる。 8. 患者とのよいラポールを確立するための方法を説明できる。 9. 信頼関係を確立するための医療面接スキルを説明できる。 10. OSCE (試験) の実施の仕方を概説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】	*岡本 康裕

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/04 (水) 2時限 10:40～12:10	9-1. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系): 医療面接・医療コミュニケーション	<p>事前学修項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OSCE (試験) 医療面接の評価について復習する。 ・医療におけるコミュニケーションの重要性について復習する。 <p>事前学修時間: 30分</p> <p>事後学修項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の配布資料の復習 <p>事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 ウ 医療面接 b マナー (身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応) c 聴取事項 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望)</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法 (言語的・準言語的・非言語的) を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習)) F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴) を聴取できる。 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*岡本 康裕
2019/12/05 (木) 3時限 13:10～14:40	9-2. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系): 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として必要な医の倫理、治療の流れを把握し、歯科医師法、医療法について理解し、修得できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯科医師として必要な医の倫理、治療の流れを説明できる。 3. 歯科医師法、医療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目: 医の倫理 準備学修時間: 30分 事後学修項目: 医の倫理 事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・配布資料</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理、生命倫理 a 患者の人権と医療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理、生命倫理 b 医療者の論理 (ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など) イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療 (インフォームドコンセント、セカンドオピニオン)</p>	*有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/05 (木) 3時限 13:10～14:40	9-2. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系): 口腔衛生・関連法規	など) b 患者の権利 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 1 健康の保持・増進と社会保障の仕組み ウ 保健・医療・福祉・介護の法規と制度 a 医事衛生法規 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済 a 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法 b 医療法 【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理 ①医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 ②医の倫理に関する規範・国際規範(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等)を概説できる。 ③臨床(生と死に関わる問題を含む)に関する倫理的問題を説明できる。 ④医学研究に関する倫理的問題を説明できる。 ⑤情報倫理に関わる問題を説明できる。 ⑥研究を、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行うよう配慮できる。 A-1-2) 患者中心の視点 ①患者の権利を説明できる。 ②患者の自己決定権を説明できる。 ③患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。 ④インフォームド・コンセントの意義と重要性を説明できる。	*有川 量崇
2019/12/09 (月) 2時限 10:40～12:10	9-3. 基本的事項: 口腔衛生・関連法規	【授業の一般目標】 健康、障害、疾病の概念を理解し、説明できる。 【行動目標(SBOs)】 1. 健康とは何か、を説明できる。 2. 第一次、第二次および第三次予防を説明できる。 3. プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 健康の定義、健康づくりにおける地域保健活動について 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 健康・予防の概念と健康づくりにおける保健活動の概念を整理する。 事後学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 302 教室 PC, 資料配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 a 概念 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 ①健康、障害と疾病の概念を説明できる。 ②口腔と全身の健康との関連を説明できる。 ③栄養と食育を説明できる。 B-3 予防と健康管理 B-3-1) 予防の概念 ①疾病の自然史と第一次、第二次及び第三次予防を説明できる。 ②プロフェッショナルケア、セルフケア及びコミュニティケアを説明できる。 ③プライマリ・ケアとヘルスプロモーションを説明できる。 ④感染性疾患と非感染性疾患の予防の違いを説明できる。	田口 千恵子
2019/12/09 (月) 3時限 13:10～14:40	9-4. 基本的事項: 口腔衛生・関連法規	【授業の一般目標】 環境による健康の影響を理解し、説明できる。 【行動目標(SBOs)】 1. 環境による健康問題を説明できる。 2. 環境基準と環境汚染を説明できる。 3. 環境に影響する要因を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 健康に影響する環境問題について 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 健康に影響する環境問題の要因と対策を整理する 事後学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 302 教室 PC, 資料配布 【学修方略(LS)】 講義	田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/09 (月) 3時限 13:10～14:40	9-4. 基本的事項：口腔衛生・関連法規	<p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 1 健康の保持・増進と社会保障の仕組み ア 健康・疾病・障害の概念 c 社会環境の変化</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-4) 環境と健康 ①環境による健康への影響を説明できる。 ②環境基準と環境汚染を説明できる。</p>	田口 千恵子
2019/12/10 (火) 3時限 13:10～14:40	9-5. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系)：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 疫学・保健医療統計を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口腔疾患の疫学について説明できる。 2. 保健医療情報について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔疾患の疫学と保健医療情報について概説できる。 事前学修時間：30分 事後学修項目：口腔疾患の疫学と保健医療情報について説明できる。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】302教室 PC, 資料配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 イ 指標と調査 a 歯科領域における統計指標と疫学調査</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-1) 歯科疾患の疫学 ①疫学と根拠に基づいた医療(EBM)の概念を説明できる。 ②スクリーニング検査を説明できる。 ③歯科疾患の疫学的指標を説明できる。 ④診療ガイドラインを説明できる。 B-4-3) 保健医療情報 ①保健医療情報（診療情報（診療録等）を含む）の取扱いと情報のセキュリティーを説明できる。 ②診療情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。</p>	後藤田 宏也
2019/12/11 (水) 2時限 10:40～12:10	9-6. 基本的事項：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 集団レベルの予防と健康管理を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 地域歯科保健について説明できる。 2. 母子保健について説明できる。 3. 学校歯科保健について説明できる。 4. 産業歯科保健について説明できる。 5. 成人歯科保健について説明できる。 6. 高齢者歯科保健について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：集団（地域、学校、成人、高齢者、産業）レベルの歯科予防について 事前学修時間：30分 事後学修項目：集団（地域、学校、成人、高齢者、産業）レベルの歯科予防について整理する 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】302教室 PC, 資料配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 2 ライフステージ別にみた保健・福祉の制度 ア 母子保健、母子歯科保健と児童福祉 c 母子歯科保健の意義</p>	田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/11 (水) 2時限 10:40～12:10	9-6. 基本的事項：口腔衛生・関連法規	<p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 2 ライフステージ別にみた保健・福祉の制度 イ 学校保健、学校安全、学校歯科保健 b 学校保健の領域・内容 e 学校歯科保健管理 c 成人歯科保健、成人の口腔保健管理 b 障害児・障害者の健康保持・増進</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 ④高齢者の置かれた社会環境を説明できる。 ⑤障害者の置かれた社会環境を説明できる。 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。 ⑥公衆歯科衛生を概説できる。 ⑧行動変容と行動療法を概説できる。</p>	田口 千恵子
2019/12/12 (木) 3時限 13:10～14:40	9-7. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系)：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯科衛生士法、歯科技工士法、その他医療介護職の役割を理解し、死因究明制度を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 歯科衛生士法、歯科技工士法、その他医療介護職の役割を説明できる。 2. 死因究明制度、死亡診断書を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：多職種連携 準備学修時間：30分 事後学修項目：多職種連携 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 3 チーム医療 ア チーム医療の意義 a 多職種連携</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-5 チーム医療の実践 A-5-1) 患者中心のチーム医療 ①患者中心のチーム医療の意義を説明できる。 ②医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明できる。 ③保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科医師の役割を説明できる。 ④他の医療機関への紹介を行うための手続を説明できる。 ⑤患者情報の守秘と患者等への情報提供の重要性を説明できる。 ⑥セカンドオピニオンを説明できる。 ⑦人生の最終段階における歯科の関わりと本人の意思決定・表示を説明できる。</p>	*有川 量崇
2019/12/16 (月) 2時限 10:40～12:10	9-8. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系)：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯科医師として必要な介護保険制度の流れを把握し、介護保険法について理解し、修得できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 介護保険法について説明できる。 2. 高齢者施策について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：介護保険 準備学修時間：30分 事後学修項目：介護保険 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済 e 保健・医療・福祉・介護の制度と職種</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境</p>	*有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/16 (月) 2時限 10:40～12:10	9-8. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系)：口腔衛生・関連法規	B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 ①保健・医療施策を説明できる。 ②社会保障制度(社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生)を説明できる。 ③高齢者の置かれた社会環境を説明できる。 ④障害者の置かれた社会環境を説明できる。 ⑤社会環境(ノーマライゼーション、バリアフリー、quality of life <QOL>)の考え方を説明できる。 ⑥地域における保健・医療・福祉・介護の連携(地域包括ケアシステム)を説明できる。	*有川 量崇
2019/12/16 (月) 3時限 13:10～14:40	9-9. 口腔衛生・関連法規	【授業の一般目標】 口腔の疾患の予防と健康管理について、理解し説明できる。 【行動目標(SBOs)】 1. 主な口腔疾患の予防を説明できる。 2. 齲蝕予防におけるフッ化物の応用法を説明できる。 3. ライフステージにおける予防を説明できる。 4. 口腔ケアの意義と効果を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：齲蝕、歯周疾患、不正咬合の予防について 事後学修時間：30分 事後学修項目：齲蝕、歯周疾患、不正咬合、口腔ケアの意義、予防方法について整理する 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 302 教室 PC, 資料配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 イ 歯の硬組織疾患の予防・管理 a 齲蝕の予防・管理 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 イ 歯周疾患の予防・管理 a 歯肉炎の予防・管理 b 歯周炎の予防・管理 1 歯の硬組織疾患 イ 歯の硬組織疾患の予防・管理 d フッ化物応用 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ①主な歯科疾患(齲蝕、歯周疾患、不正咬合)の予防を説明できる。 ②齲蝕予防における予防填塞及びフッ化物の応用法を説明できる。 ③ブラークコントロールの意義と方法を説明できる。 ④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。 ⑤歯科疾患のリスク因子を説明できる。 ⑥公衆歯科衛生を概説できる。	田口 千恵子
2019/12/17 (火) 3時限 13:10～14:40	9-10. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規(衛生・診断系)：口腔衛生・関連法規	【授業の一般目標】 疫学・保健医療統計について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 主な保健医療統計を説明できる 2. 主な健康指標(平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率等)を説明できる。 3. 調査方法と統計的分析法を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：保健医療統計について概説できる。 事前学修時間：30分 事後学修項目：保健医療統計について説明できる。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 302 教室 PC, 資料配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 イ 指標と調査 b 人口統計、保健統計	後藤田 宏也

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/17 (火) 3時限 13:10～14:40	9-10. 医の倫理・医療事故・コミュニケーション 保健・関連法規 (衛生・診断系): 口腔衛生・関連法規	【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-2) 保健統計 ①確率変数とその分布、統計的推測(推定と検定)の原理と方法を説明できる。 ②主な保健医療統計(歯科疾患実態調査、国民健康・栄養調査、国勢調査、人口動態調査、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、学校保健統計調査等)を説明できる。 ③主な健康指標(平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率等)を説明できる。 ④調査方法と統計的分析法を説明できる。	後藤田 宏也
2019/12/18 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験(ユニット9)補充講義は自主学習の時間に行う	【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 PC Webクラスを用いた試験 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/12/19 (木) 3時限 13:10～14:40	ユニット9 補充講義	【授業の一般目標】 弱点項目の確認と強化 【行動目標(SBOs)】 1. これまでの学修項目を整理する 2. 医の倫理、関連法規について 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの学修内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 学修媒体: PC 【学修方略(LS)】 演習 【場所(教室/実習室)】 302教室	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/12/23 (月) 2時限 10:40～12:10	プレテスト(ユニット10)	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの学習内容 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室 【コアカリキュラム】	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2019/12/23 (月) 3時限 13:10～14:40	準備学習-3(準備学習4を自主学習の時間帯に行う)	【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行うために必要な知識を習得する。 【行動目標(SBOs)】 1. 自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 2. 歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 3. 医療の改善の必要性和科学的研究の重要性を説明できる。 4. 科学的研究に積極的に参加する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 今までの資料等 ・準備学修時間: 60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/23 (月) 3時限 13:10～14:40	準備学習-3 (準備学習4を自主学習の時間帯に行う)	<p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 3 一般教養的事項</p> <p>イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 A-9-1) 生涯学習への準備 ①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 ③医療の改善の必要性和科学的研究の重要性を説明できる。 ④科学的研究 (臨床研究、疫学研究、生命科学等) に積極的に参加する。</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦
2019/12/24 (火) 3時限 13:10～14:40	10-1. 顎口腔領域の疾患 (口腔外科系): 歯原性腫瘍, 代謝障害・細胞傷害の病理学	<p>【授業の一般目標】 歯原性腫瘍, 代謝障害及び細胞傷害による形態学的変化を理解するために, その病理学的特徴について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯原性腫瘍の分類を説明できる。 2. 歯原性腫瘍の病理学的特徴を説明できる。 3. 加齢の原則について説明できる。 4. 加齢による口腔諸組織の病理学的変化の基本的事項について説明できる。 5. 加齢に関連する退行性病変 (萎縮・変性・壊死・アポトーシス) について説明できる。 6. 加齢に関連する進行性病変 (肥大・過形成・化生) について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 歯原性腫瘍の分類 2) 退行性病変 (萎縮, 変性, 壊死, アポトーシス) の特徴 ・事前学修時間: 60分 事後学修項目 1) 学修性腫瘍の病理組織学的特徴 2) 退行性病変 (萎縮, 変性, 壊死, アポトーシス) の病理組織学的特徴 ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング有り: WebClassを用いた演習・副教材 302教室, マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害, 萎縮, 壊死</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-3) 組織, 器官及び個体の老化 ②老化に伴う細胞, 組織, 器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。 C-5 病因と病態 C-5-2) 細胞傷害, 組織傷害及び萎縮 ①細胞傷害と組織傷害を説明できる。 ②変性と関連疾患の病態を説明できる。 ③疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。 ④萎縮と仮性肥大を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦
2020/01/14 (火) 3時限 13:10～14:40	10-2. 顎口腔領域の疾患 (口腔外科系): 口腔領域の嚢胞性疾患	<p>【授業の一般目標】 顎骨内に発生する歯原性・非歯原性嚢胞や軟組織嚢胞について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 下記の学修目標及び講義内容は臨床経験に基づいて設定されている。 2. 顎骨内嚢胞を理解する。 3. 顎骨内に発生する歯原性嚢胞・非歯原性嚢胞を理解する。 4. 軟組織に発生する嚢胞を理解する。 5. 嚢胞を診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 前期授業のプリントを熟読する。 事前学習時間: 40分 事後学習項目: 授業プリント, 教科書の確認をする。 事後学習時間: 50分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p>	*西村 均

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/14 (火) 3時限 13:10～14:40	10-2. 顎口腔領域の疾患(口腔外科系): 口腔領域の嚢胞性疾患	<p>歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞 b 非歯原性嚢胞 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経疾患の病態・診断・治療 j 舌痛症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。</p>	*西村 均
2020/01/15 (水) 2時限 10:40～12:10	10-3. 顎口腔領域の疾患(口腔外科系): 小手術の基本手技、救急処置	<p>【授業の一般目標】 小手術を適切に実施するために必要な基本的知識を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 3. 小手術の合併症を説明できる。 4. 小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 C-4-5), E-2-2), 4) 事前学修時間: 30分 事後学修項目 授業の配布資料の復習 事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302教室 PC</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 抜歯、口腔の小手術</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ①抜歯の適応症と禁忌症(相対的禁忌への対応及び小手術の適応症と禁忌を含む)を説明できる。 ②小手術の合併症(偶発症)を説明できる。 ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。 ④粘膜の切開、剥離に必要な器具の用法を説明できる。 ⑤縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。 ⑥手指と術野の消毒法を説明できる。 ⑦清潔と不潔の区別を説明できる。 ⑧器具の消毒・滅菌法を説明できる。 ⑨埋伏歯(智歯を含む)の抜去法を説明できる。 ⑩周術期の管理の目的と意義を説明できる。</p>	*大峰 浩隆
2020/01/16 (木) 3時限 13:10～14:40	10-4. 顎口腔領域の疾患(口腔外科系): 小手術の基本手技、救急処置	<p>【授業の一般目標】 小手術を適切に実施するために必要な基本的知識を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 3. 小手術の合併症を説明できる。 4. 小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 C-4-5), E-2-2), 4) 事前学修時間: 30分 事後学修項目 授業の配布資料の復習 事後学修時間: 60分</p>	*枝 卓志

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/16 (木) 3時限 13:10～14:40	10-4. 顎口腔領域の疾患(口腔外科系): 小手術の基本手技、救急処置	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 抜歯、口腔の小手術</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ①抜歯の適応症と禁忌症(相対的禁忌への対応及び小手術の適応症と禁忌を含む)を説明できる。 ②小手術の合併症(偶発症)を説明できる。 ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。 ④粘膜の切開、剥離に必要な器具の用法を説明できる。 ⑤縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。 ⑥手指と術野の消毒法を説明できる。 ⑦清潔と不潔の区別を説明できる。 ⑧器具の消毒・滅菌法を説明できる。 ⑨埋伏歯(智歯を含む)の抜去法を説明できる。 ⑩周術期の管理の目的と意義を説明できる。</p>	*枝 卓志
2020/01/20 (月) 2時限 10:40～12:10	10-5. 顎口腔領域の疾患(口腔外科系): 小手術の基本手技、救急処置: 救急処置	<p>【授業の一般目標】 救急処置の基本を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。 3. 意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 4. 気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 5. 気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 6. 胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。 7. 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 歯科麻酔実習(救急蘇生法)で配布した冊子の復習 1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 11 初期救急 ア 救急患者の診察 a 救急処置を要する症状および病態(心停止、失神、ショック、けいれん、頭痛、運動麻痺、呼吸困難、胸痛、アレルギー症状、誤飲、誤嚥)</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ①歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。 ②一次救命処置(basic life support <BLS>)を説明できる。 ③救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序と適応を説明できる。</p>	*卯田 昭夫
2020/01/20 (月) 3時限 13:10～14:40	10-6. 顎口腔領域の疾患(口腔外科系): 唾液腺腫瘍および唾液腺非腫瘍性疾患	<p>【授業の一般目標】 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類および病態を説明できる。 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類および病態を説明できる。 唾液腺非腫瘍性疾患を列挙できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 良性唾液腺腫瘍の組織発生、種類および病態を説明できる。 3. 悪性唾液腺腫瘍の組織発生、種類および病態を説明できる。 4. 唾液腺非腫瘍性疾患を列挙できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 今まで学んだコアカリの範囲C-4-1), 2), E-1-2), E-2-4), E-4-2) 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 唾液腺腫瘍の分類、組織像 事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302 教室 あり(Webclass)</p>	*久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/20 (月) 3時限 13:10～14:40	10-6. 顎口腔領域の疾患(口腔外科系): 唾液腺腫瘍および唾液腺非腫瘍性疾患	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 f 唾液腺の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法(細胞診、組織診、画像診断)及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法(細胞診、組織診、画像診断)及び治療法を説明できる。 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*久山 佳代
2020/01/21 (火) 3時限 13:10～14:40	10-7. 歯と歯周組織の常態と疾患(インプラント系)	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 3. 口腔インプラントの基本構造が説明できる。 4. デンタルインプラントの治療法について説明できる。 5. インプラント治療のための検査・治療計画を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 今まで学んだコアカリの範囲 E-3-4)-(3)①, ②, ③, ④ 事前学修時間: 30分 事後学修項目 授業の配布資料の復習 事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】302教室にてマルチメディアを用いた講義 アクティブラーニング: 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 6 インプラント義歯による治療 ア インプラント義歯の設計 b 埋入計画の立案</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) 口腔インプラント ①口腔インプラントの種類、特徴、目的及び意義を説明できる。 ③口腔インプラントに必要な診察と検査を説明できる。</p>	*北川 剛至
2020/01/22 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験 (ユニット10)	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室, 411教室 PC Webクラスを用いた試験</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/22 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験(ユニット10)		*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子
2020/01/23 (木) 3時限 13:10～14:40	共用試験(CBT・OSCE)受験に当たっての諸注意 CBT体験テスト	<p>【授業の一般目標】 CBTに対応できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 該当なし</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 なし</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室</p> <p>【学修方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 13 一般教養的事項</p> <p>イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 A-9-1) 生涯学習への準備 ①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 ③医療の改善の必要性和科学的研究の重要性を説明できる。 ④科学的研究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に積極的に参加する。</p>	*小宮 正道 *宇都宮 忠彦 *山口 秀紀 *大口 純人 *北川 剛至 *齋藤 真規 *三田村 佐智代 *石井 智浩 *枝 卓志 *岡部 達 *小峯 千明 *目澤 優 *石井 かおり 田口 千恵子